

# みどりの東北

MIDORI NO TOHOKU

Vol.  
**165**  
東北森林管理局



**特集**

平成29年度国有林モニター現地見学会を開催

「企画調整課」

## CONTENTS

### ■美しい森林づくり

小学校のみどり学習における森林環境教育の取り組み

..... [三八上北森林管理署]

### ■我が署の名所

津軽峠 マザーツリーと「ぶな巨木ふれあいの径」

..... [津軽森林管理署管内]

特集

Special  
Feature  
Article

# 平成29年度国有林モニター 現地見学会を開催

## 企画調整課

林野庁では、国有林野の管理経営に国民の皆様のご意見・ご提案を役立てるため、「国有林モニター制度」を設けています。

国有林モニターの皆様には、資料提供や現地見学会などを通じ国有林野事業についての理解を深めていただき、アンケートや意見交換等の中で、国有林野事業についてご意見・ご提案をいただくこととしています。

東北森林管理局においては、平成28年4月から2年間、管内5県にお住まいの34名の方に国有林モニターとして活動していただいています。

さて、この度、国有林モニター活動の一環として、10月13日（金）に三陸中部森林管理署管内において、今年度の国有林モニター現地見学会を開催しました。

平成28年度に開催した2回の現地見学会では、それぞれ「治山事業」「森林整備事業」という、国有林野事業の根幹をなす事業を見学いただいています。

今回は、

「森林病虫  
獣害対策」

と「林業の  
低コスト

化」をテー  
マとして、

シカや松く  
い虫、ナラ

枯れによる  
森林被害と

その対策を知っていただくとともに、コンテナ苗の植栽現場の見学と植栽体験を通じて、林業の低コスト化について理解を深めていただきました。

当日は、先ず、陸前高田市にある気仙大工左官伝承館に移動し、東北森林管理局企画調整課長・三陸中部森林管理署長より、それぞれ東北森林管理局・三陸中部森林管理署の概要を説明しました。また、気仙大工左官伝承館館長より、釘を使わない伝統



気仙大工左官伝承館で東北森林管理局・三陸中部森林管理署について説明

工法で、地元産の木材を用いてつくられた木造建築である伝承館についても説明いただきました。

続いて、大船渡市と陸前高田市の境界付近に位置する末崎山国有林において、松くい虫とナラ枯れの被害状況と被害木の処理方法を見学しました。松くい虫・ナラ枯れそれぞれについて、被害の発生するメカニズムや被害の概要、被害を防止するための取組について職員が説明を行いました。



被害木を囲んでナラ枯れについて説明

モニターの方からの「どうやって被害木を発見するのか。またナラ枯れ被害はどこまで北上しているのか」という質問に対し「林野巡視により職員が発見している。

日本海側は青森県深浦町まで、太平洋側は岩手県宮古市まで被害が確認されている」と職員が回答するなど、活発な質疑応答が行われ、「民有林と連携して対策を行っていくことが重要」などのご意見もいただきました。

また、大船渡市の同国有林においてシカによる下層植生や植栽木の被害、防鹿柵による植栽地の保護についても見学を行いました。



小型囲いわなやセンサーカメラを用いてシカ被害対策について説明



防鹿柵で保護されたコンテナ苗植栽地

職員がシカによる森林被害の説明を行うとともに、センサーカメラや誘引餌、囲いわな等の対策について、実際に器具や使い方を示しながら説明を行いました。  
モニターの方からの「囲いわなの入口に

設置されているセンサーは、シカだけに反応するのか」という質問に対し「動くものを全て感知する。動物の種類までは識別できない」と職員が回答するなど、ここでも活発な質疑応答が行われました。また、「捕獲したシカを食料として有効活用できれば」などのご意見もいただきました。  
さらに、防鹿柵の内側の植栽地では、コンテナ苗の特徴や植栽方法について、苗木や器具を用いた実演を交えながら説明を行い、苗木の植栽も体験していただきました。  
体験したモニターの方からは、「土に苗木を植えるための穴をあけるのが楽」「女性でも簡単に植えられる」などのご感想をいただきました。



専用の器具を用いてコンテナ苗の植栽を体験

最後に、木造建築である三陸中部森林管理署庁舎を見学いただき、現地見学会は終了となりました。

見学会を通して、モニターの方々から、「被害の実態を見学でき、それぞれの対応や苦労の話をきくことができ大変勉強になった」「初めて見るシカ食害の現状に驚き、早急な対策の必要性を感じた」等の感想をいただき、東北森林管理局の取組等について、より一層理解を深めていただけたのではないかと考えております。

今後は、会議での議論やアンケートにより、モニターの方々に国有林野事業についてご意見・ご提案をいただく予定です。



三陸中部森林管理署庁舎前で記念撮影

# 美しい森林づくり

## 小学校のみどり学習における

### 森林環境教育の取り組み

三八上北森林管理署

当署では、十和田市立法奥小学校と協力し、4年前から毎年、みどり学習として森林教室を行っています。

#### ●ブナの森たんけん（3年生）

9月、十和田市内の国有林にあるブナの巨木「森の神」周辺で、森林の大切さを学ぶ森林教室を実施しました。「森の神」は推定樹齢約400年で、根の保護のため柵に囲まれているので、幹周りの長さに合わせて輪にしたロープを広げたり、輪の中に入ったりすることで、巨木の大きさを実感しました。森林の役割や大切さについて学んだ後、付近を散策。ブナやトチの実、キノコを見つけた子供たちから、「ここには何種類の木があって何本あるの?」「キノコはどのようにして生えるの?」「木の根の長さはどれくらい?」などの質問があり、職員が丁寧に答えました。子供たちからは、「ブナの種を初めて見た」「ブナの木の年齢、太さがわかった」「いろんな木を見てよかった」等の感想が聞かれました。



森林の大切さについて学習

#### ●森林・林業・木材産業体験学習（6年生）



柱の重さは?

9月から11月にかけての3日間で、地域の森林と木材生産についての森林教室を実施しました。1日目は教室での事前授業として、職員が先生となり、木を伐り利用することと環境との関わりについて学習。木造住宅1軒に使用される木材の量は柱何本分?といった三択問題などが出題され、木材の量が予想よりも多いことに「おっ」と驚きの声があがっていました。さらに、

適切に伐採・植栽を行って若い樹木を生長させることで、光合成を活発にし、より多くの二酸化炭素を吸収させることができることなどを説明しました。木を伐ることは悪いことというイメージを持っていた児童が多い中、適切に伐って利用することの重要性を理解していただけたと思います。

2日目は、現地見学です。午前中は間伐作業中の国有林で、事業請負者の上北森林組合職員から説明を受けた後、チェーンソーによる伐採作業や高性能林業機械（ハーベスタ）での伐採・枝払い・造材作業を見学。目の前で木が倒れると、児童から歓声や拍手が起り、「オノは使うんですか?」「1日何本くらい木を伐るんですか?」「今まで伐った木で一番樹齢が高いのは何歳でしたか?」など多くの質問が寄せられました。切り株の年輪を皆で数えて、実際の林齢と合っているか?ということも確認。さらに、実際にチェーンソーを持ってその重さを体感したり、ハーベスタの操縦席に座らせていただいたりと盛りだくさんの内容で、児童全員、積極的に体験していました。午後は上北森林組合木材加工センターへ移動し、製造ラインによって丸太から柱や板といった製品を作り出す様子や、端材等を木材乾燥用ボイラーの燃料として利用し、資源を無駄なく使っていることを学びました。



チェーンソーは重い!



慎重にカンナがけ

3日目は、十和田市内のいわきの家(有限会社岩木建設)で、木工体験とモデルハウスの見学です。まず、端材を利用したペン立て作りと、カンナがけの木工体験を行いました。慣れない作業に苦戦しながらも、挑戦するうちにどんどん上達していき、特にカンナがけは皆で競うように2回3回と体験していました。その後モデルハウスの中へ移動し、社長から使用している木材やその良さについて説明を受け、とくに10種類以上の木材が使われていることに驚きの声が上がりました。説明の後は、30分ほどモデルハウスの中を自由に探検し、木材が住宅に使用されている様子を学びながらも、あちこちで子供達の歓声があり、楽しみながら木材に親しむことができました。

この森林教室を通じて、循環資源としての森林の大切さとともに、林業・建築という仕事の役割や魅力、大変さなどを伝えることができたのではないかと思います。



いわて林業アカデミーの  
研修生を受入れ

盛岡森林管理署

今年4月に開校した「いわて林業アカデミー」では、1年の研修期間で林業に関する知識や技術を体系的に習得し、将来的に林業事業者の経営の中核となり得る現場技術者を養成するため研修を行っています。

第1期研修生15名は、林業の現場の専門家で構成する「いわて林業アカデミーサポートチーム」や東北森林管理局、岩手大学、森林総合研究所、林業事業者、指導林家等の協力により、座学や現場実習に日々奮闘しています。

国有林関係では、盛岡森林管理署管内において10月31日（火）、11月1日（水）の2日間の日程で、当署職員が講師となり国有林の業務内容の紹介や事業フィールドを活用した研修を行いました。

1日目は、署会議室において長江署長より「東北の国有林について」の講義の後、今年度新設した林業専用道の施工箇所において、林業専用道の規格



15名の第1期研修生



長江署長の講義

や構造物等についての説明や、今後の伐採計画や接続する森林作業道の取付け位置などについて意見交換を行いました。

その後、素材生産請負箇所の土場に移動し、有利採材と仕分けについての検討を行いました。盛岡森林管理署では、請負事業者や買受業者等を含めた採材検討会の開催や原木流通関連会議へ参加し、市況動向等を踏まえた採材や仕分けを行うことにより、顧客の購入意欲を高めることに繋がっていること。また、採材は販売価格に直結し、プロセッサ等のオペレーターの現場での即時の判断が重要となることから、作業者のスキルアップの必要性に納得した様子でした。



構造物についての説明



林業専用道の概要説明

2日目は、被害が深刻化している二ホンジカ対策について、盛岡市大ヶ生おがひの虫壁山国有林で防鹿柵の有効な設置方法等の説明後、林業技術センターに移動し二ホンジカによる森林被害について、長江署長が講義を行いました。昼食後は、平成25年の大雨で被害があった矢巾町の矢巾温泉上流部に施工した治山ダムの見学と保安林制度について説明を行いました。

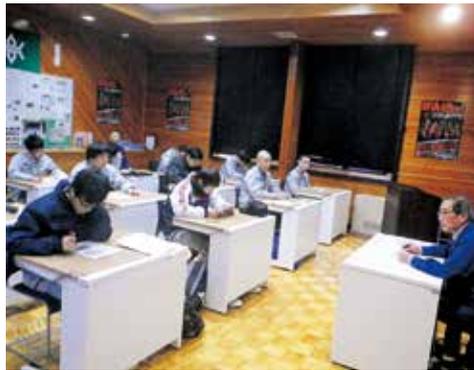


有利採材等について検討



また、民国連携の取組では、紫波町森林整備推進協定や岩手町松くい虫防除帯森林整備推進協定の取組内容、多雪寒冷地におけるコンテナ苗の改良と育林手法等について、松尾森林技術指導官が紹介しました。

研修後のふりかえりでは、「国有林での仕事が木材生産だけではなく、広く山造りに関わっていることがわかった」、「シカ対策やコンテナ苗の実験等、新しい技術の開発や実践を率先して行



シカによる森林被害についての講義



防鹿柵の設置状況について説明



民国連携の取組紹介



治山施設の見学

っていることは大切だと感じた」などの感想がありました。

盛岡森林管理署では、今後も講師の派遣やフィールドの提供等を通じて国有林の取組を紹介しながら、地域の技術者育成に向けて協力してまいります。

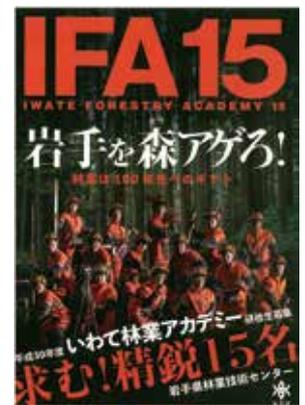
三浦先生は、昭和46年11月より東北森林管理局（当時秋田宮林局）の産業医として採用され、その間定期的に同に赴き、職員の健康相談や指導にご尽力いただき、平成24年度までは安全衛生委員会の委員として、医学的見地からの職場環境等に対するの指導も頂いたところであります。

近年では、昨年度より導入されたストレスチェックの実施に当たっての指導等を頂いたほか、高ストレス者への個人面談も行うなど、45年もの長きにわたり、東北森林管理局職員の心と体

昨年度まで東北森林管理局の健康管理医として採用していただきました三浦治先生が長年勤めておられました病院を退職されたことに併せ、東北森林管理局における健康管理医についても、本年3月31日をもってお辞めになりました。

### 三浦先生へ林野庁長官より感謝状の授与 （45年間健康管理医として貢献）

総務課



平成30年度 第2期研修生募集のパンフ



三浦先生長い間ありがとうございました

の健康に関して、多大なる貢献を頂いたところであり、その長き功績を讃え、11月16日局長室において小島局長より林野庁長官からの感謝状を授与いたしました。

三浦先生からは、健康管理医として努めさせていただいた間、森林についても色々教えていただき、貴重な経験もさせていただいたと感謝の言葉がありました。

# わたしの美しい森 フォトコンテストのお知らせ

## 1. 概要

林野庁では、本年4月28日に全国93箇所（うち、東北森林管理局管内11箇所）選定した「日本美しい森 お薦め国有林」をはじめとする各地の森林を貴重な観光資源と位置づけ、地域振興に活用されることを期待した各種施策に取り組んでいます。

これを踏まえ、今般、林野庁を含む「わたしの美しい森 フォトコンテスト」実行委員会は、同フォトコンテストを開催し、日本国内の森林や山村地域の魅力的な風景・場面を撮影した写真を募集・表彰し、これを公表することとしました。

このことを通じ、より一層、森林・山村地域を観光客が訪れ、地域への理解が進み、また、地域が活性化することなどが期待されています。

皆様の御応募をお待ちしております。

## 2. 応募要領

### (1) 募集部門

(ア) 景観部門：森の絶景・森から見える眺望など、森の風景を撮影したもの

(イ) 生命部門：森で育まれる生物（昆虫・動植物）の生命・営みをテーマに撮影したもの

(ウ) 体験部門：森での体験・活動や森での学習により何かを発見したことなどをテーマに撮影したもの

### (2) 募集期間

平成29年12月11日（月曜日）～平成30年2月13日（火曜日）（当日消印有効）

### (3) 応募資格・方法

○どなたでも応募できます。

○お一人につき1部門1点、合計3点まで応募できます。組写真、加工・編集された画像のものは、不可とします。

○プリントでの応募のみとします。（サイズ：キャビネ・2Lサイズ（127mm×178mm）からワイド四つ切サイズ（254mm×366mm）までの大きさ（B5 六つ切、A4、四つ切を含む）

○写真の撮影時期は、平成26年（2014年）1月1日以降のものとなります。

○送り先

※郵送・宅配便にてお送りください。直接のお持ち込みはお断り申し上げます。

郵便番号100-8952

東京都千代田区霞が関1-2-1 林野庁「わたしの美しい森 フォトコンテスト」係

## 3. 表彰

林野庁長官賞（1点）、実行委員長賞（審査員特別賞）（1点）、部門優秀賞（3点以上）、佳作（1点以上）、森林管理局長賞（7点）

## 4. 表彰式

日時：平成30年3月28日（水曜日）（予定）（上位入賞者には、別途、詳細を通知します。）

場所：イトーキSYNQA（東京都中央区）

備考：上位入賞者には、表彰式への参加を御案内します。また、表彰式に出席する

上位入賞者1名分の旅費（上限3万円まで）を主催者が負担します。

これ以外の入賞者については賞状及び副賞を郵送します。

※詳しい詳細・応募票については、下記のURLをご覧ください。

<http://www.rinya.maff.go.jp/j/press/kokusou/171120.html>



梨畑と鳥海山（山形県酒田市）



十二湖の日本キャニオン（青森県深浦町）



紅葉と大朝日岳（山形県大江町）



蔵王スキー場の樹氷（山形県山形市）

## 威風堂々の櫟

ケヤキ（ニレ科）別名ツキ

盛岡森林管理署 森林技術指導官 松尾 亨

国花はサクラとキク、国鳥はキジ。国木で?・・・実は決まってないそうです。それらしい候補はあったらしいのですが、北海道から沖縄まで分布した樹木を選ぶのは難しいですよ。今回は私としての有力候補のケヤキを紹介したいと思います。

分布は本州、四国、九州の山野に広がり、樹高30m程で直径2m以上になり堂々とした樹影が印象的です。屋敷林や街路樹にも使われ、肥沃な土壌から乾燥した急斜地や海岸沿いでも成育するタフなタイプです。4月～5月の新葉は赤茶から薄緑に変化し、黄緑色の花を付けます。葉は互生することから枝がジグザク状に伸び、鋸歯があり表面がザラつきます。種は米粒大で樹下散布と、風を利用し小枝ごと遠く飛ぶこともあります。材質は堅牢で不朽に強く、木目が美しいことから玄関の上がり框や、床柱などに使われます。

現在でも高級建材ですが、江戸時代の伊達藩では庶民の使用に制限があり、大船渡市の長安寺の山門造営では、「櫟にあらす槻」であると寺側の弁明に、藩が待ったを掛け未完成になったままです。櫟と槻は樹種としては同じで、材質で見分けることからどちらとも取れる押し問答ですね。

威風堂々と広野に立つ櫟の由来は、古語の「けやけ・し木」が語源で、際だって目立つや美し木の意味の「けやけし」が転化、「つき」も古語でつよき（強き）からの転化です。美と丈夫さが魅力的な櫟は古くから仏像や食器にも利用されています。今年も残すところ少しですが、クイズを一つ

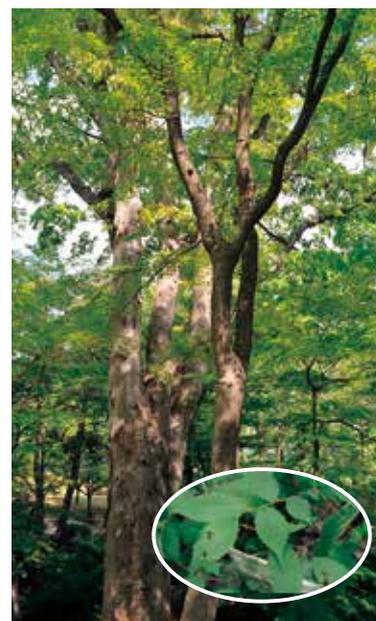
Q.年越しに向けて大忙しの櫟材の道具は何?  
(ヒント いっぱい突かれます) 答えは10P



ケヤキの新葉と蕾み



ケヤキの種子



初夏の緑陰



銘木市場のケヤキ材



ケヤキ板とお盆



# 森林官からの手紙



## 森林官になって早3年目

米代東部森林管理署 上小阿仁支署(小沢田担当区) 森林官 田中 靖夫

私の勤務する小沢田森林事務所は、秋田市から北東へ自動車で約1時間に位置しています。管内は、上小阿仁村の北東側約3千六百ヘクタールの国有林を管轄しています。支署新庁舎が完成し、今年9月から支署庁舎内に併設され勤務しております。管内の見どころを含め紹介いたします。

### 上大内沢自然観察教育林

上大内沢自然観察教育林は大正13年に天然林収獲試験地に設定され、その後2回の間伐が行われながら、林分構造、生産量等についての調査が実施され、昭和63年、天然秋田スギ林分を含む一帯が自然観察教育林に指定されました。住民の憩いの場、小中学生の自然科学教育をはじめ森林の役割や森林施業等について一般の方々への理解を深める場として利用されています。



上大内沢自然観察教育林のコブ杉

林内には、村内外から見学者が多く訪れる名木として知られている「森の巨人たち百選のコブ杉」(平成12年に選定)があり、大人の背丈ほどのところから幹がコブ状に盛り上がっており、独特な様相を呈しています。樹齢は25年前後と推定され、平成13年度調査によれば、1ヘクタール当たりの本数は184本、1本当たり材積は平均約11立方

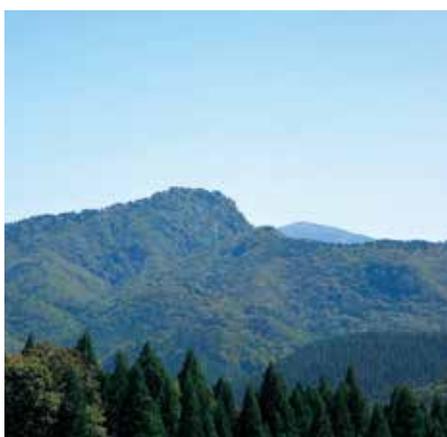


上小阿仁村全村植樹祭

毎年開催している、上小阿仁村主催の植樹祭に協賛として我が署も参加させていただき、今年も上小阿仁村を管轄する南沢首席森林官と署内関係者と共に参加してきました。冒頭村長の

### 上小阿仁村全村植樹祭

毎年開催している、上小阿仁村主催の植樹祭に協賛として我が署も参加させていただき、今年も上小阿仁村を管轄する南沢首席森林官と署内関係者と共に参加してきました。



姫ヶ岳 (奥は森吉山)

メートル、平均樹高43メートル、平均胸高直径85センチとのことです。  
**ひめがたけ 姫ヶ岳(旧阿仁町、上小阿仁村)**  
安山岩質の集塊岩巨岩塊からなり、急峻な渓谷や高さ50〜100mに及ぶ絶壁の多い特異景観の山です。周辺はブナ・スギの混交林からなり、頂上付近の岩壁にはチチツパベンケイソウなどの岩壁植生が見られます。



遊々の森での体験林業

主な業務としては、生産事業、造林事業、林道の建設機械チャーター、林道除草、収獲調査等の各請負事業の監督、直営の収獲調査、境界管理(予備調査、巡視)、林道点検、林野巡視等となっています。支署内の方々や隣の首席森林官及び現場職員の協力を得ながら、老体にムチ打って微力ながら毎日の業務に臨んでいます。

遊々の森「のぞみの森」における体験林業  
毎年開催している林業体験を今年7月18日、遊々の森「のぞみの森」において、上小阿仁中学校3年生13名を対象に枝打ち、除伐をしました。生徒には初めての経験で、最初は少し不安そうでしたが、作業を進めるうちに鋸の取り扱いにも慣れ、終わったときにはきれいな造林地となりました。来年度以降も体験林業等を通じて、森林の持つ役割に関心を持ってほしいと思います。

挨拶から始まり、各関係機関からの挨拶の後植樹方法の説明があり、それぞれ頑張つて植え穴掘りに精を出していました。今年には特に年配の女性が多かったように思われました。



②マザーツリー



①臨時のバス停と定期バス



③作業の様子

# 我が署の名所

津軽峠 マザーツリーと「ぶな巨木ふれあいの径」

(青森県中津軽郡西目屋村)

津軽森林管理署管内

津軽森林管理署の管内には、東アジア最大のブナ林が広がる世界自然遺産の「白神山地」があります。遺産地域の緩衝地域には「白神山地・暗門の滝自然観察教育林」(レク森)が設定されており、西目屋村の暗門地区に、遺産地域を散策できる「世界遺産の径ブナ林散策道」が整備されています。

今回は、暗門地区から少し先の、県道岩崎西目屋弘前線(通称白神ライン)の西目屋村と鱒ヶ沢町の境にある「津軽峠」周辺の見所を紹介します。暗門地区から車で約25分、6月始めから11月始め頃までの期間は、地元バス会社により津軽峠に臨時のバス停が設置され、便数は少ないですがバスの運行が行われています。(写真①)

津軽峠の駐車場(バス停)から、「ぶな巨木ふれあいの径」を歩くこと約5分、歩道の正面に、この地域のシンボルである「マザーツリー」が姿を現します。(写真②)

推定樹齢400年以上、樹高30m、胸高の幹周りは46mもあり、その堂々とした姿に、訪れた人々は圧倒されます。現在は、マザーツリーを保護する目的で、周囲にロープを回したり、土が踏み固められて硬くなるのを防ぐためのウッドデッキを設置しています。

今年、ボランティア団体の「津軽人文・自然科学研究会」が、三菱UFJフィナンシャルグループからの資金協力を得て、樹木医によるマザーツリーの樹勢診断、診断に基づく樹勢回復のための治療(ツリー周囲の堅くなった土壌を柔らかくして、活性炭を混ぜ込む土壌改良)を7月と9月に実施し、地元西目屋村の職員や当署の職員も作業に協力しました。(写真③)

林野庁の「日本美しい森-お薦め国有林-」に、当署の「白神山地・暗門の滝自然観察教育林」がレク森のモデル地区として選定されました。西目屋村の意向や当レク森協議会の賛同を得て、今後、津軽峠周辺までレク森を拡大して整備を行っていく事としており、今年度は、「ぶな巨木ふれあいの径」の急勾配で滑りやすい箇所、歩道が削られて歩きにくくなった箇所に階段を設置する工事を実施し、利用者からは、安全で歩きやすくなったとの評価を頂いています。(写真④)

これまで、白神ラインが通行できる6月始めから10月末頃まで、津軽峠周辺の高倉森登山道への入山者数は、環境省がデータを収集していましたが、マザーツリーへの来訪者数は把握出来ていなかったことから、当署が7月6日に、入山者を把握するための機器を設置しました。(写真⑤)

10月31日にデータを回収したところ、約4ヶ月(11日)で5,275人がマザーツリーに来訪していることが分かりました。特に多かったのは8月で、1,769人の来訪者がありました。来年度以降も継続してデータを収集していきたいと考えています。

「ぶな巨木ふれあいの径」の歩道沿には、マザーツリーに匹敵するような、ブナの巨木を見ることが出来ます。ゆくり散策して、自分のお気に入りのブナの木を見つけて下さい。この記事を見られた方には、是非とも津軽峠まで足を運んでいただければと思います。

◎交通アクセス

弘前市内から約50km  
車で約90分  
白神ラインは、暗門地区から大部分が未舗装の道路です。



津軽森林管理署

〒036-8101 青森県弘前市大字豊田二丁目2-4  
TEL 0172-27-2800 FAX 0172-27-0733



⑤入山者カウンター



④整備した階段

8Pのミニコラムの答え 白(うす)

